

薬剤師から説明!

## 合成T4製剤 について



薬剤部 薬剤師  
井上 勝光  
いしうえ しょうこう

甲状腺ホルモンは、心臓や肝臓、腎臓、脳など全身の臓器に作用して代謝を盛んにするなど、大切な作用を持つホルモンです。

甲状腺ホルモンの合成・分泌障害により引き起こされる甲状腺機能低下症では、甲状腺ホルモン製剤によりその不足分を補うホルモン補充療法が行われます。その際に使用されるのが化学的に甲状腺ホルモンを合成したレボチロキシン (T4) であるチラーゼンSです。

### 甲状腺ホルモン剤を服用する際のポイント

#### ■ 服用するタイミングは？

血中濃度を維持するために医師の指示通りに毎日決まった時間に飲むことが大切な薬です。就寝前、起床時、空腹時には服用すると吸収がよくなるとの報告があり医師より指示されることがあります。

#### ■ 飲み忘れた場合には？

##### 1日1回服用されている方

→ 思い出したときに1回量をその日のうちに服用してください。

##### 1日2～3回服用されている方

→ 思い出したときにその1回分の量を服用し、次の回から通常の時間帯で服用してください。  
翌日に気づいた場合は、前日分は服用せずに当日分だけを服用してください。

#### ■ 妊娠中の方、妊娠を希望される方へ

甲状腺ホルモンは胎盤をほとんど通過しないため、胎児への副作用はありません。母親の甲状腺ホ

ルモンが不足していると胎児に影響し、流産、早産、胎児発育不全等を起こしやすいです。このため、適量の甲状腺ホルモン剤の投与による補充療法が重要になります。

#### ■ 授乳している方へ

授乳している場合にも使用できます。母親の血中甲状腺ホルモンを正常に維持する量であれば、乳汁中に正常者と同じ量が分泌されるため、投与した甲状腺ホルモン剤は乳児に悪影響を及ぼしません。

#### ■ 他のお薬との相互作用は？

下の表のお薬はチラーゼンS錠・S散と同時に服用するとチラーゼンS錠・S散の吸収を妨げることがあります。そのため併用する場合には、服用時間をずらす必要があります。

### チラーゼンと飲み合わせに注意が必要なお薬

お薬	主な成分
鉄剤	フマル酸一鉄 クエン酸第一鉄など
高カリウム血症改善薬	ポリスチレンスルホン酸ナトリウム ポリスチレンスルホン酸カルシウム
アルミニウムを含む薬剤	スクラルファート水和物 乾燥水酸化アルミニウムゲルなど
高リン血症治療薬	炭酸ランタン水和物 セベラマー塩酸塩 沈降炭酸カルシウム
高コレステロール血症治療薬 (陰イオン交換樹脂材)	コレステラミン コレステミド

#### ■ 最後に

甲状腺ホルモン剤は長期にわたって服用が必要となることが多いお薬です。そのため自己の判断で服用を中断せず、気になることは医師や薬剤師へご相談ください。

# くす通信

第254号  
2022年4月1日

国立病院機構熊本医療センター 発行

糖尿病・内分泌内科より

## 慢性甲状腺炎(橋本病) について

薬剤部より

## 合成T4製剤について

4月



### 「くす(樟)」の由来について

くす(樟)は常緑の広葉樹で、熊本城内に多く見られます。種々の精油成分を含み、良い香りがします。樟脳をはじめ色々な薬用成分が抽出されるなど有用な薬用樹でもあります。

また、くすし(薬師)とは、医師のことを指し、くすしぶみ(薬師書)は医術に関する書物のことを言います。

本誌はこの「くす」にあやかり、健康な生活を送るために情報を提供しております。お気軽にお読み下さい。



## 慢性甲状腺炎(橋本病)について

糖尿病・内分泌内科医師

にしだ しゅうへい  
西田 周平



### 甲状腺について

甲状腺は首の前方にある蝶々のような形をした臓器です。喉ぼとけの下あたりに存在します。臓器は右葉、左葉と峡部から成ります。大きさは縦に3～5 cm程度です。嚥下に伴って上下に動くので、診察の時に患者さまに唾を飲み込んで頂きながら触診をすることがあります。甲状腺にため込まれているホルモンが甲状腺ホルモンです。甲状腺ホルモンは体の代謝に重要な役割を果たします。

### 慢性甲状腺炎(橋本病)

慢性甲状腺炎は1912年に橋本 策博士によって明らかになった疾患であり、博士の名前から橋本病ともいわれています。慢性甲状腺炎は自己免疫疾患の一つです。免疫が甲状腺を標的にすることで、甲状腺に慢性的に炎症が生じ発症します。なぜ免疫の異常が引き起こされるのかは未だにわかっていません。

慢性甲状腺炎は、甲状腺の数値が低くなる甲状腺機能低下症の原因疾患の一つです。男性よりも女性に多く、成人女性の10人に1人にみられます。ただし、全例に甲状腺機能低下が認められるわけではなく、甲状腺機能が正常な方もいます。実際に甲状腺機能低下が認められるのは慢性甲状腺炎の方の4～5人に1人と言われています。

甲状腺が腫れてくるのが特徴ですが、自覚症状に乏しく、偶然診察時や首の超音波検査で見つかることもあります。

甲状腺機能低下が認められる場合は、むくみや、便秘、無気力、体重増加、寒がり、かすれ声などの症状がでてくることがあります。認知症やうつ病に間違えられることもあります。筋肉の酵素の一つであるクレアチニンキナーゼ(CK)やコレステロールが採血で上昇することもあります。実際に甲状腺機能が低下しているかどうかは、採血で甲状腺ホルモンを測定することで判明します。

甲状腺機能が正常である場合、基本的に治療の必要はありません。甲状腺機能が低下している場合は合成T4製剤を内服します。甲状腺機能は変動することありますが、いったん甲状腺機能低下症となった場合、合成T4製剤は生涯必要になる場合が多いです。また、甲状腺機能が正常であっても甲状腺刺激ホルモンが10を超える場合や、妊娠中の場合は合成T4製剤で治療する場合があります。特に妊娠中の場合、甲状腺刺激ホルモンのみが高い潜在性甲状腺機能低下症であっても流産や妊娠高血圧症のリスクがあることが知られているため、合成T4製剤を内服して甲状腺刺激ホルモンを低めに保つ必要があります。



## 糖尿病・内分泌内科の紹介

糖尿病・内分泌内科では糖尿病や高血圧、脂質異常症、肥満症など体の代謝に関わる疾患を中心に診療を行っています。その他に、内分泌疾患(甲状腺や副腎、下垂体など)領域についても診断・治療を行っています。糖尿病領域においては病態評価や合併症の評価を行い、患者さまそれぞれの病態に合った治療を提案しています。また、入院中に糖尿病教室を行い糖尿病に関しての知識を深めています。当科には妊娠糖尿病の患者さまも多いため、周産期合併症予防のために、入院でのインスリンの導入や分割食を用いた食事療法の教育なども積極的に行っています。

### 国立病院機構熊本医療センター

- 診 察 日 月曜日～金曜日
- 休 診 日 土・日曜日及び祝日  
年末年始(12月29日～翌年1月3日)
- 受付時間 8:15～11:00  
〒860-0008 熊本市中央区二の丸1-5  
TEL 096(353)6501(代表)  
FAX 096(325)2519  
H P <https://kumamoto.hosp.go.jp/>

※ 形成外科のみ受付は、水曜日以外の13:30～16:30となります。

※ 一部の科では、午後に予約診療を行っていますが、新患、予約のない方の午後診療は行っておりません。急患はいつでも受診できます。